

# ウミウとカワウの黒い関係について

海老原美夫（浦和市）

水辺に行くと、気になるやつがいる。真っ黒で大きいやつ。川にいればカワウ、海にいればウミウと、普通は安易に片づけているのだが、うっかり本気で気にしてしまうと混乱が始まる。今回はこの黒い関係にせまってみた。

## ■識別ポイントは

要するに、ウミウとカワウの識別ポイントはどこなのだろう。少し大きいとか小さいとかいうが、この区別では分かりにくい。成鳥の背が緑色光沢があるか、褐色が強いか。これは大きな手がかりだが、若鳥では区別はつかない。飛んでいる時に見える翼の位置というのも、観察位置や飛行状況によってなかなか難しい。決め手にはならない。

「私にも分かる」手がかりを求めて、『フィールドガイド日本の野鳥（略称・FG）』、『日本鳥類大図鑑（通称・清棲図鑑）』、神奈川支部報『はばたき』1992年3月号に上野動物園飼育課・福田道雄氏が書いた「カワウとウミウの識別」、福田氏が日本鳥類標識協会の会合で発表した内容のレジュメ、それらを紹介解説してくれた本部政策調査部長・園部浩一郎氏の私信などを読んでみた。

## ■黄色い裸出部が問題だ

後頭部の丸みがどうのこうのというのも私には分かりにくいので、パス。どんどんパスしていく、最後に残ったのが、顔の黄色い裸出部が、その後ろの白い羽毛部と、くちばし付近で接する線の形。私は個人的にそこに行き着いた。ほかが分かりにくいんだもの、仕方がないではないか。私はその線にしがみつくのだ。

図を見ていただこう。FGでは、①の線がカワウ、②の線がウミウの様に読み取れる。はたしてそうだろうか。

上野動物園に現れたウミウの写真、山階鳥類研究所の両者の標本の写真、たくさんのかわうの写真、自分で写したカワウ（と思われ

るやつ）と、ウミウ（と思われるやつ）のドアップビデオ映像などに目を通す。

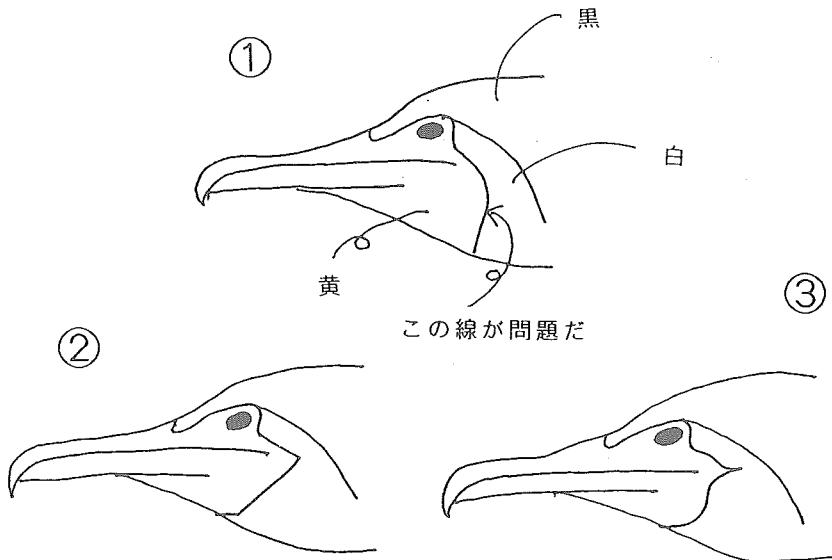
園部氏の私信では、図の①②のように直線的な線はカワウ。ウミウは③のように曲線を描き、先端が尖って食い込んでいるという。私は、また川に出かけてカワウの顔を写し、海に出かけてウミウの顔を写し、ひたすらそこだけを見続けて、ついに納得した。②の線がかなり鋭い角度を描いているカワウもいるが、ウミウのような曲線的な食い込みはない。①②がカワウ、③がウミウなのだ。

FGのイラストとはちょっと違う結論になってしまうというのも、いかにも黒いやつらのやりそうなことだ。今後新たな知見が得られるまでは、私はここに識別ポイントを置く事にするが、顔の線が見えるほど近くなかつたらどうするか。ま、その時は、川にいればカワウ、海にいればウミウと言ってしまおう。それでいいのだ。

## ■埼玉にウミウはいたか

昭和53年（1978年）3月に埼玉県教育委員会が発行した『埼玉県動物誌』によれば、「北足立郡野田村字代山（現在の浦和市代山）に生息している記録がある」として、根拠文献として「黒田長礼1925／日本産ウミウについて／鳥 No. 20」があげられていて、これが県内の唯一の記録なのだ。

ところが、この黒田氏の論文を読むと、ここで書いてある「ウミウ」というのは、実は「カワウ」のことらしい。「ウミウ（一名カハツ）学名Phalacrocorax carbo」と書いてあるが、旧名カハツというのはカワウのことを言い、学名も現在のカワウのことだ。15ペ



ージに及ぶ論文を読み通して、その内容からも、明らかにこれはカワウについての記載である。ということは、埼玉にはウミウの記録はないことになる。

#### ■ウミウとカワウは逆だった ■■■■■

昔のある一時期は、カワウの名前とウミウの名前が逆だったという、驚くべき事実を知ってしまったのは、この時のことだ。いかにもこのやつらしい黒い関係ではないか。

本来のそれぞれの学名は、

カワウ *Phalacrocorax carbo*

ウミウ *Phalacrocorax filamentosus*

である。

ところが、日本鳥学会の出版した「日本鳥類目録／初版／1922」では、

*Phalacrocorax carbo* ……Umi-u

*Phalacrocorax filamentosus* ……Kawa-u

となっていて、全く逆なのだ。

後に鳥学会の初代会頭となった飯島魁が1891年にまとめた日本最初の鳥類目録「NIPPON NO TORI MOKUROKU 動物学雑誌第3巻後付」では、本来のカワウに「ウミツ、シマツ」、本来のウミウに「カワウ、カワツ」と和名が与えられている。飯島が和名を選定するにあたっては、江戸時代の養禽書を参考にした様だが、その段階で何かの誤解が生じ、それが後の目録まで引き継がれたのではないかと、

園部氏は考えている。

#### ■埼玉にはウミウの記録はない ■■■■■

要するに、埼玉の唯一のウミウの記録が実はカワウのことだったとすると、埼玉にはウミウの記録がなかったことになる。

当支部の野鳥記録委員会が発表している県内野鳥リスト（探鳥会のチェックリストと同じ）は、『埼玉県動物誌』以後、1978年4月以降を対象としているので、ウミウは記録されていない。だから、あわてて書き直さなくとも良い。それは良いのだが、本当に埼玉にウミウは飛来していないのだろうか。

ウミウは海岸から数10kmくらいなら内陸の水辺にも飛来し、カワウのコロニー内に混入することもあるという。とすれば、埼玉に飛来する可能性は十分すぎるほどある。

埼玉の水辺にいるんだから、カワウでしょうなんて、気楽に言えなくなってしまった。もし、顔が見える距離で遭遇したら、気をつけて見ようではないか。あなたも県内初記録の栄誉に浴するチャンスはあるのだ。

もしウミウがいたら、顔の線がはっきり分かる写真を送って欲しい。それがはっきり分からないと、野鳥記録委員会のメンバーは、また頭を抱えることになるからだ。

黒いやつらは、果たして注目を浴びるだろうか。